

## 第2章 施設整備の検討



## 1. これまでの検討および再開決定の経緯

### (1) 平成 29 年度『熊本競輪事業検討会』の概要

#### ①設置目的と検討の概要

- ◇平成 29 年度『熊本競輪事業検討会』（以下、「29 検討会」という）は、熊本地震により自場開催が不可能となった熊本競輪事業に関し、再開の可否を含めて中長期的な方向性を検討することを目的に設置した。
- ◇「29 検討会」では、「収支推計」「将来計画」「財源確保」など総合的な観点から評価を行い、関係団体の意見や全国の動向、競輪場の保有資産などを踏まえて検証・検討を行った。

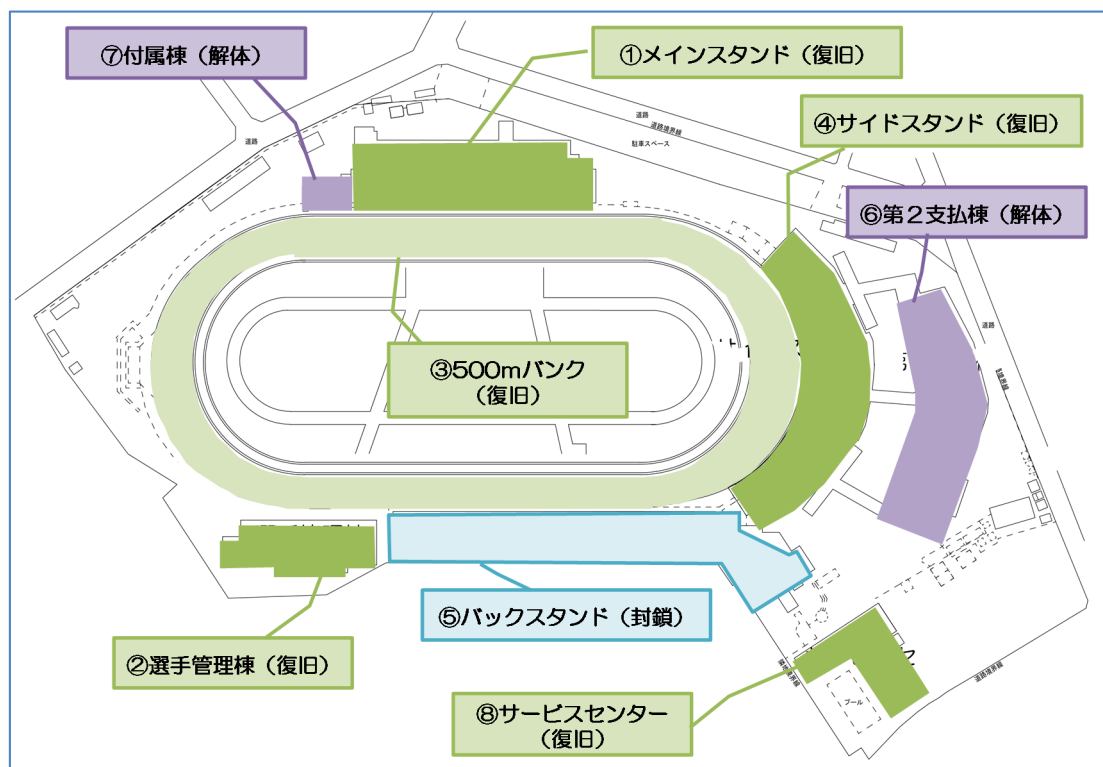
#### ②「29 検討会」の意見まとめ

- ◇収支は黒字を確保できる。熊本地震からの復旧・復興財源として寄与するためにも、収益事業である競輪事業の早期再開が望ましい。  
ただし、競輪事業から一般財源への繰出が 2 年連続して 2 億円を下回った場合は、直ちに新たな検討会を立ち上げ廃止を含む検討を行うこと。
- ◇再開規模については、基金積立額と遊休資産を処分した額の範囲内で実施可能な水準とし、一般財源からの支援は受けないこと。
- ◇確保が見込まれる財源額の推計からは、当面、現地にて運営に必要な最低限の復旧を行う「縮小再開」とならざるを得ないが、「地域貢献」、「災害対応」、「アマチュア振興」の 3 つの理念の実現に向け、売り上げ向上、経費削減などにさらに取り組むこと。
- ◇最後に、熊本競輪事業から一般財源への繰出金は、熊本地震からの復興財源ともなるものであり、また、競輪施設が避難所や災害備蓄倉庫などの機能を有する防災拠点となることで、市民生活に大きく貢献する施設として生まれ変わることを期待し、本検討会のまとめとする。

### ③「29 検討会」における復旧の想定

◇来場者数については年々減少しており、近年の実績から見込まれる来場者に対し、現在の観客席の規模は過大である。そのため全ての建物を復旧する必要性はないこと、第2 支払棟およびバックスタンドは解体または封鎖してもその機能は別の場所へ移転可能であることから、以下のような復旧案を想定した。

図 2-1 「29 検討会」時の整備案と復旧イメージ



|     |                                              |
|-----|----------------------------------------------|
| 復 旧 | ： ①メインスタンド、②選手管理棟、③バンク、④サイドスタンド<br>⑧サービスセンター |
| 解 体 | ： ⑤バックスタンド（封鎖後解体）、⑥第2支払棟、⑦付属棟                |

## (2) 再開決定

- ◇「29 検討会」の意見を受け、競輪事業の収益が熊本地震からの復興財源に寄与すること、競輪施設が新たに防災拠点として生まれ変わることで復興のシンボルとなり得ると考え、熊本競輪場の再開を決定した。
- ◇再開にあたっては、3つの理念の実現を図るための施設整備を行うこと、また、都市公園内の運動施設としてふさわしい施設であることが必要である。さらに、競輪事業実施の目的が市財政に寄与するためであることから、一般財源に頼ることなく競輪事業の収益等により施設整備を行わなければならない。

### ①3つの理念の実現を図るための施設整備の方向性

- ◇「29 検討会」の意見をもとに、「地域貢献」「災害対応」「アマチュアスポーツの振興」の3つの理念を実現するための施設整備が求められ、このことを踏まえ、検討の視点を整理する。
- ◇特に「地域貢献」「災害対応」の実現については、駐車場やオープンスペースを確保することが重要であり、縮小再開による施設整備が必要となる。

表2-1 理念実現のための検討の視点

| ＜地域貢献＞                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域コミュニティの拠点として地域に開放できる競輪施設（建物）の整備、空地を確保し小規模公園とするなど市民が活用できる空間の整備が必要である。</li> <li>◇市民が利用できる多目的ホール、災害時の避難場所、グラウンドゴルフなどのスポーツができるスペース、プールの再開など、地域住民の要望にも応えていくことが必要である。</li> </ul>                                      |
| ＜災害対応＞                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◇災害時を想定し、防災倉庫や災害時避難所として活用できる施設を整備が必要である。</li> <li>◇熊本地震の経験から車中泊の需要に対応するための駐車場や支援物資の集積・集配機能のため広い空地の確保が重要となる。</li> </ul>                                                                                             |
| ＜アマチュアスポーツの振興＞                                                                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◇高校生等自転車競技選手やアマチュア愛好者、車いす競技者が活用するための練習施設の整備が必要である。</li> <li>◇バンクに関しては、自転車競技世界大会の標準である250mバンクに近い短走路が望まれていることを考慮する。</li> <li>◇日本競輪選手会熊本支部から、選手管理棟の検車場とローラー練習室の拡充の要望があり、プロとアマチュアが一体的に利用できるような施設整備が求められている。</li> </ul> |

## ②都市公園としての競輪場のあり方

◇都市公園内の公園施設（運動施設）としての役割を果たすためには、競輪レースの開催だけではなく、建物やバンクを広く自転車競技の練習・大会に利用できるようにすることが必要である。

◇都市公園法では、公園内を自由に行き来できる空地を適正に確保するという観点から、建物の建ぺい率 12%以下、運動施設面積率 50%以下を求めている。

◇現状は、競輪場施設の運動施設面積が大きく、50%を超過（表2-2）していることから、水前寺運動公園全体の施設整備上の課題となっている。

◇復旧イメージ（図2-1）のように一部建物を解体することで建ぺい率の条件を満たすが、現状の周長 500mバンクでは運動施設面積率が超過したままである。

◇都市公園としてのあり方からも、不用施設の解体などにより施設規模を極力縮小し、現状 500mバンクで整備を行う場合においても、運動施設面積率の条件を満たすことが望まれる。

表2-2 都市公園法等からの基準値比較

|                         |                        | 単位：㎡                    | 地震前             | 500m<br>バンク案    |
|-------------------------|------------------------|-------------------------|-----------------|-----------------|
| 競輪場                     | X1                     | 建築面積（競輪場施設全体）           | 11,232          | 5,580           |
|                         | a1                     | うち 運動施設該当面積             | 11,232          | 4,300           |
|                         | a2                     | バンク面積                   | 23,000          | 23,000          |
|                         | Y1                     | 運動施設面積（a1+a2）           | 40,476          | 27,300          |
| 他の運動施設<br>（競技場・武道場・野球場） | X2                     | 建築面積<br>（野球場・武道館・競技場）   | 5,187           | 5,187           |
|                         | Y2                     | 運動施設面積<br>（野球場・武道館・競技場） | 41,845          | 41,845          |
| 水前寺運動公園                 | Z                      | 公園全体面積                  | 124,300         | 124,300         |
| 建ぺい率の基準                 | $(X1+X2) / Z : 12\%以下$ |                         | 13.2%<br>(基準超過) | 8.7%<br>(基準達成)  |
| 運動施設面積率の基準              | $(Y1+Y2) / Z : 50\%以下$ |                         | 66.2%<br>(基準超過) | 55.6%<br>(基準超過) |

※数値は概算値

## ③収支見通しと整備財源

◇「29 検討会」でも言及されているとおり、一般財源に頼ることなく施設整備の財源を確保する必要があるため、将来の収支見込を算出し、財源の検討を行う。

◇平成 30 年 12 月時点における熊本競輪の収支見込は図 2-2 のとおりで、「29 検討会」時の推定より収支が上向き、平成 30 年度以降も黒字が見込まれる。これまで同様、一般会計への繰出金 2 億円を確保したうえで、施設整備基金の積立が可能で、平成 32（2020）年度時点で約 31 億円を見込むことができる。

◇また、競輪場内に駐車場を整備し、場外の駐車場を売却することでさらに財源を確保することが可能となる。保有する場外駐車場の平成 28 年度時点の路線価評価額に基づく参考価格の総額は約 15.6 億円（図 2-3）である。

◇施設整備にあたっては、見込まれる基金積立額および駐車場売却により得られる財源の範囲内において行うものとする。

図 2-2 熊本競輪の収支見込

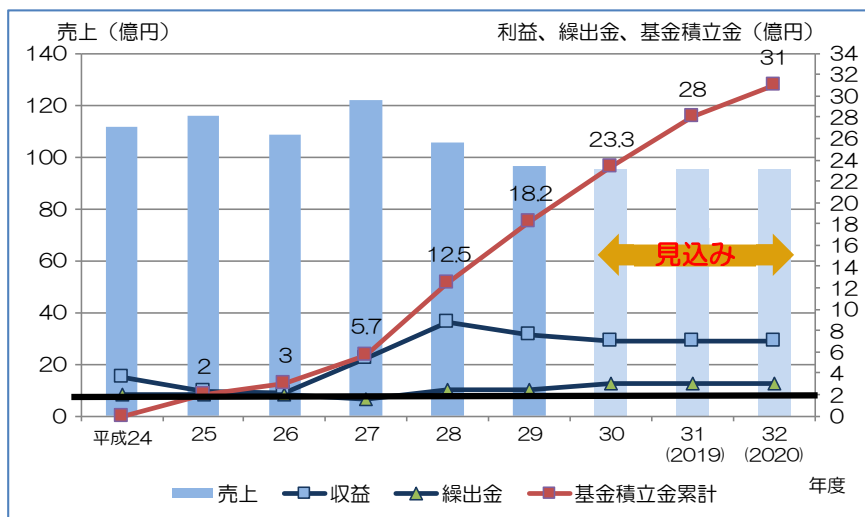
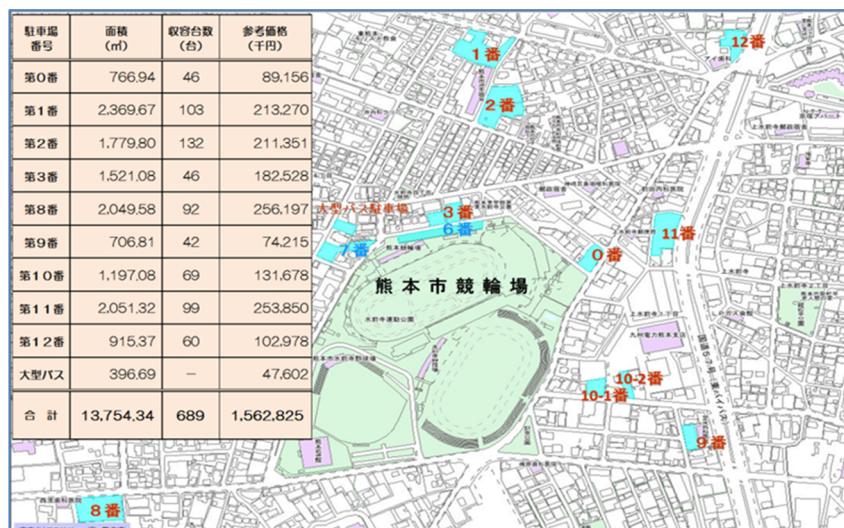


図 2-3 熊本競輪場における駐車場の状況



## 2. 再開に必要な施設規模

### (1) 収容規模の設定

◇施設の整備を行うにあたり、まず、見込まれる来場者数を基に最適な収容規模を検討する。

◇熊本競輪場で開催するレースのうち、最も多く来場が見込まれるレースへの来場見込者数より場内収容者数を、最も開催日数が多いレースへの来場見込者数より施設（建物）内収容数を、それぞれ最適な収容規模として設定する。

図2-4 本場開催時の1日当たりの平均来場者数（単位：人）

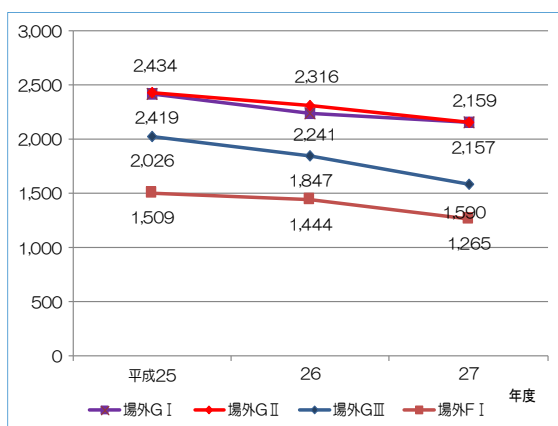
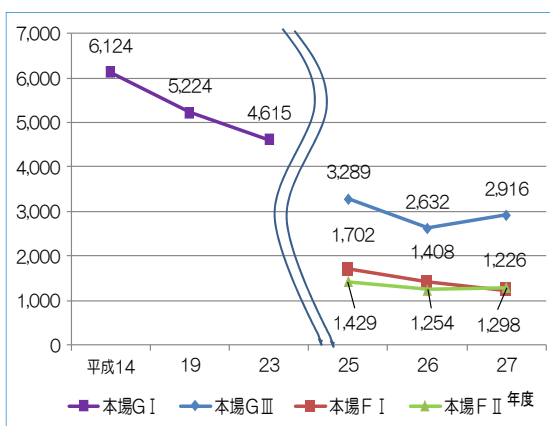


図2-5 場外発売時の1日当たりの平均来場者数（単位：人）



#### ①本場開催時の来場見込

◇熊本地震以前3年間（G Iは過去3回）における本場開催時の1日当たりの来場者数平均の推移は図2-4のとおりで、最も開催数が多いF I、F IIで1,200～1,700人、年1回のG III（記念競輪）で約3,000人、近年のG I（特別競輪）では約5,000人が来場している。

◇したがって、再開後の最も多い来場者数を、本場G I開催時の5,000人と見込むことができる。

#### ②場外発売時の来場見込

◇同様に場外発売時の来場者数は図2-5のとおりで、G I、G IIで2,000～2,500人、G IIIで1,500～2,000人、F Iで1,500人となっている。

◇本場開催と場外発売を合わせたグレード別開催日数は、場外発売のG IIIとF Iの合計が全体の約8割を占めており、G IIIの約2,000人を最も開催日数が多いレース時の来場者と見込むことができる。

◇なお、毎年 12 月 30 日に一日限りで開催される G P（競輪グランプリ）は場外発売で約 5,000 人の来場者が見込めるが、実際は、車券購入後に滞留せず帰宅される場合もあり滞留人数はこれより少ないと想定される。

### ③収容人数の検討

◇以上から、本計画において熊本競輪場内に必要な収容規模は、本場 G I 開催を想定して、5,000 人と設定する。

◇また、競輪場施設（メインスタンド）に必要な収容規模は、開催日数が最も多い場外発売 GⅢおよび F I を想定して、2,000 人と設定する。

表 2-3 収容人員の比較

|          | 本場来場者 1 日平均<br>(人) | 収容人数<br>(人) | スタンド収容人数<br>(人) |
|----------|--------------------|-------------|-----------------|
| 函館       | 991                | 8,000       | 2,700           |
| いわき平     | 1,765              | 8,585       | 1,452           |
| 取手       | 2,198              | 7,098       | 5,348           |
| 宇都宮      | 1,847              | 13,310      | 5,578           |
| 平塚       | 3,134              | 20,726      | 8,870           |
| 高知       | 1,335              | 9,187       | 9,187           |
| 松山       | 1,482              | 5,000       | 1,056           |
| 武雄       | 655                | 3,291       | 2,291           |
| 熊本（整備見込） | 1,411              | 5,000       | 2,000           |

※本場来場者数 1 日平均は平成 28 年度（熊本は平成 27 年度）

※近年メインスタンドが整備された競輪場を抽出

（資料）全国競輪施行者協議会資料より作成

## (2) 駐車場台数の設定

- ◇施設規模と同様に施設整備に必要な駐車場台数の設定も必要であり、その検討を行う。
- ◇駐車場の利用状況については地震前の統計データはないものの、場外発売時で満車状態であることはほとんどなく、駐車車両の整理等を行う従事者の経験値では、多い時で6～7割の利用度合いであった。
- ◇つまり、利用が多い場合でも 689 台×70%≒500 台程度であったと推測される。
- ◇平成 30 年 6 月に行った来場者アンケート調査から、競輪場への自家用車による来場率を約 65%、平均的な場内滞在率を 75%と見込んで、場外開催 GⅢの来場者(2,000 人)を想定した場合、 $2,000 \times 65\% \times 75\% \div 1,000$  人となり、1 台あたり平均 2 人で来場を仮定すると 500 台分の駐車場が必要となる。
- ◇以上から、必要な駐車場台数は 500 台と設定する。
- ◇グレードレース等これ以上の来場者が見込まれる場合には、近隣の駐車場を借り上げることで対応する。

表 2-4 駐車場の状況比較

|          | 本場来場者数 1 日平均 (人) | 駐車場台数 (台) |
|----------|------------------|-----------|
| 函館       | 991              | 583       |
| いわき平     | 1,765            | 851       |
| 取手       | 2,198            | 1,750     |
| 宇都宮      | 1,847            | 2,818     |
| 平塚       | 3,134            | 3,541     |
| 高知       | 1,335            | 691       |
| 松山       | 1,482            | 1,248     |
| 武雄       | 655              | 1,942     |
| 熊本(整備見込) | 1,411            | 500       |

※本場来場者数 1 日平均は平成 28 年度(熊本は平成 27 年度)

※近年メインスタンドが整備された競輪場を抽出

(資料) 全国競輪施行者協議会資料より作成

- ◇上の表に、近年リニューアルを行った競輪場における、本場来場者数の 1 日平均と駐車場台数を示している。この中で、本場来場者数が熊本競輪場の想定に近い高知競輪場で約 700 台を確保している。高知競輪場は市街地にあるが、公共交通の最寄停留所等から離れており、交通機関が整備されている熊本競輪場における設定は妥当と判断する。

### 3. バンク周長と施設整備手法の検討

#### (1) バンク周長決定の必要性

##### ①復旧・解体する施設の整理

- ◇現状の施設規模が過大であり、不要施設を解体、必要な施設のみを復旧する「縮小再開」の観点から施設整備をすすめる必要がある。また、施設規模を 2,000 人と設定したことからこの規模に見合う施設整備を行う必要がある。
- ◇既存メインスタンドは延床面積約 4,500 m<sup>2</sup>で、座席数約 1,100 席を有しており、改修により 2,000 人の収容は可能であると判断できる。当然ながらメインスタンドを建替える場合でも 2,000 人収容の施設を整備することは可能である。
- ◇したがって、メインスタンドに収容する機能を集約するものとし、復旧・解体する施設を次のとおり整理する。

復 旧 : メインスタンド、選手管理棟、バンク、サービスセンター

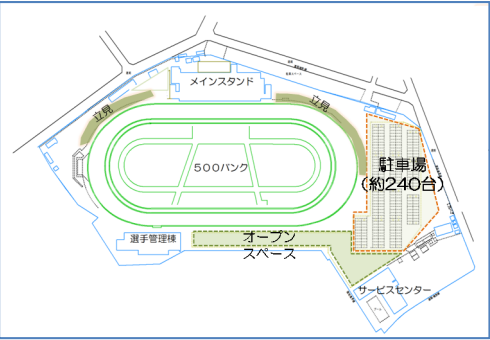
解 体 : バックスタンド、第2支払棟、サイドスタンド

##### ②各バンク周長の整備イメージ

- ◇「29 検討会」後の整備案は、既存の 500mバンクによる復旧を想定していたが、各関係団体からそれぞれ異なるバンク周長による整備の要望がなされたことから、まずは、バンク周長に関する検討を行う。
- ◇現行の自転車競技法下で想定されるバンク周長（500m、400m、333m）ごとの整備イメージを、図 2-6 のとおり想定する。
- ◇メインスタンドと選手管理棟は、既存の 500mバンクに沿って整備されており、バンク周長を変更すると、建物は縮小したバンクに沿った再配置が想定される。よって、復旧するメインスタンドと選手管理棟については、500mバンクを整備する場合は既存施設の改修により、400mおよび 333mバンクを整備する場合は新築建替による整備を前提として検討を行う。

図 2-6 敷地整備イメージ図

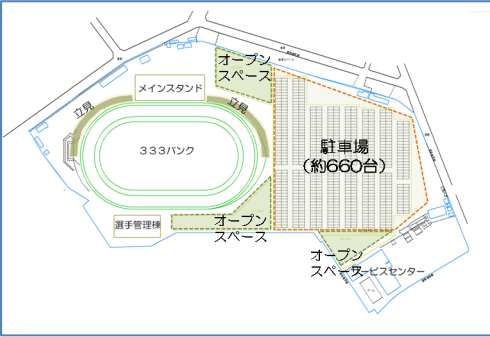
＜A 500mバンク案＞



＜B 400mバンク案＞



＜C 333mバンク案＞



＜A 500mバンク案＞

復旧する施設は既存施設の改修による整備

＜B 400mバンク案、C 333mバンク案＞

復旧する施設は新築建替による整備

◇3つの理念の実現や都市公園内にふさわしい施設整備のためには、駐車場やオープンスペースとして活用できる空地面積の確保が重要であり、空地面積が広いほど活用方法が広がる。また、バンク周長の違いにより確保できる空地面積に差が生じるほか、整備費用も各バンク案で差が生じる。

表 2-5 利活用面積と整備費用（概算）

| 利活用面積表<br>（概算値）（単位：㎡） | A<br>500mバンク案 | B<br>400mバンク案 | C<br>333mバンク案 |
|-----------------------|---------------|---------------|---------------|
| ①駐車場面積                | 5,030         | 9,430         | 13,310        |
| ②オープンスペース             | 2,750         | 4,410         | 4,170         |
| ③利活用面積（①+②）           | 7,780         | 13,840        | 17,480        |
| バンク内芝生面積              | 10,700        | 8,400         | 6,350         |
| 整備費用（概算）              | （改修）23 億円     | （建替）35 億円     | （建替）35 億円     |

※駐車場、オープンスペースは仮配置であり、設計により変動する。

◇敷地内に整備できる駐車場数は図 2-6 のとおりバンク周長の違いにより差が生じる。

◇駐車場の必要台数を 500 台と設定したことから、不足する台数分の周辺駐車場を残し、他の駐車場を売却するとした場合の売却額は表 2-6 のとおりとなる。

◇敷地内駐車場の整備により不要となる周辺駐車場の売却額に差が生じる。

表 2-6 駐車場売却見込み額

|              | A 500m<br>バンク案 | B 400m<br>バンク案 | C 333m<br>バンク案 |
|--------------|----------------|----------------|----------------|
| 現有駐車場        | 10ヶ所           | 10ヶ所           | 10ヶ所           |
| 再開後の周辺駐車場保有数 | 3ヶ所            | 1ヶ所            | 0ヶ所            |
| 売却可能駐車場      | 7ヶ所            | 9ヶ所            | 10ヶ所           |
| 売却額（見込み）     | 10.4 億円        | 14.7 億円        | 15.6 億円        |



◇これらのことから、施設整備をすすめるにあたり、まず、バンク周長を決定する必要性が生じた。

## (2) 平成 30 年度『熊本競輪事業検討会』による検討

### ①立ち上げの契機

◇バンク周長の違いにより、施設整備の方向性に差異が生じること、また、各関係団体からそれぞれ異なるバンク周長の要望があったことから、施設整備を検討するなかで、まず、バンク周長を決定する必要性が生じた。

◇バンク周長の決定にあたっては、各関係団体の意見・要望を十分に聴取し、また周長の決定に至る議論が「29 検討会」意見まとめに沿うものかを検証を行い、最適なバンク周長の方向性を示すべく平成 30 年度『熊本競輪事業検討会』（以下、「30 検討会」という）を設置した。

### ②検討経過および検討結果

◇「30 検討会」は6月～8月にかけて3回開催し、バンク周長および施設整備のあり方について、専門的見地から意見をいただいた。

◇検討会では、各バンク周長案について、関係団体の意見要望を聴取したうえで、収益性の確保や財政基盤の維持、縮小再開方針との整合性、地域貢献・災害対応・アマチュアスポーツ振興の3つの理念の実現性などの視点から、表 2-7 の評価項目により総合的な評価を行い、意見を取りまとめた。

表 2-7 評価項目

|                                                                         | 検討比較項目                 |
|-------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| Ⅰ. 【財政的制約】<br>収益性確保<br>および<br>財政的基盤維持                                   | ① 再開後の財政基盤額（保有資産評価額含む） |
|                                                                         | ② 競輪事業収益向上貢献度          |
|                                                                         | ③ 競輪事業費用削減貢献度          |
|                                                                         | ④ 再開後の耐用年数             |
| Ⅱ. 【規模的制約】<br><br>縮小再開                                                  | ⑤ 初期施設整備投下コスト          |
|                                                                         | ⑥ 既存施設利活用度             |
|                                                                         | ⑦ 敷地基準（公園）適合度          |
| Ⅲ. 【機能的制約】<br>「地域貢献」<br>「災害対応」<br>「アマチュアスポーツの<br>振興」<br>および<br>競輪競技への対応 | ⑧ 地域貢献                 |
|                                                                         | ⑨ 災害対応                 |
|                                                                         | ⑩ アマチュアスポーツの振興         |
|                                                                         | ⑪ 競輪（プロ）競技             |
|                                                                         | ⑫ 車いす競技                |

### ③「30 検討会」意見とりまとめ

◇「30 検討会」の意見取りまとめは、以下の通りである。

◇バンク周長別のさまざまな諸要件について、収益性の確保や財政基盤の維持、昨年度とりまとめた「3つの理念」の実現性、縮小再開方針との整合性などの視点から総合的に評価した結果、「400mバンクによる施設整備」を提案する。

◇400mバンクとした場合、新たに利活用が可能となる空地が多く生み出される。その空地を活用し防災機能の強化を図るとともに、地域が利用できる施設や市民が憩うことのできる空間の確保など、「地域貢献」、「災害対応」、「アマチュアスポーツ振興」の3つの理念の実現に努めていただきたい。

◇なお、熊本競輪場の再開は復旧復興に取り組む熊本市財政に寄与するためであることを本検討会では再確認した。そのうえで、収益性および財政基盤の安定確保に向けた取り組みを進めることはもとより、施設整備にあたっては、既存施設の利活用を図るなど、可能な限り経費削減に努められるよう併せて提案する。

### (3) 既存施設の利活用

- ◇既存施設は現状の 500mバンクに沿って配置されており、バンク周長を変更し規模を縮小する場合、それに合わせた配置のため新築建替を想定していた。
- ◇「30 検討会」の意見を受け「既存施設の利活用を図るなど、可能な限り経費削減に努める」観点から、バンク周長と同時に、既存施設の活用についても改めて検討する。

#### ①既存施設利活用の課題

- ◇本項では既存施設（メインスタンドと選手管理棟）の利活用ができるかについて、審判機能（審判室と写真判定カメラ）の状況から考察する。
- ◇既存の建物を残し、400mバンクを整備する場合、課題となるのはメインスタンドの審判機能に合わせたバンク配置が可能かどうかである。
- ◇審判機能は、既存メインスタンドの 4、5 階にあり、現状 500mバンクのゴールライン延長線上に配置されている。
- ◇図面上の検討では、400mバンクを、既存の選手管理棟から距離が離れすぎないようにバランスよく配置すると、既存メインスタンドとバンクの間に約 13mの空地が生じる。

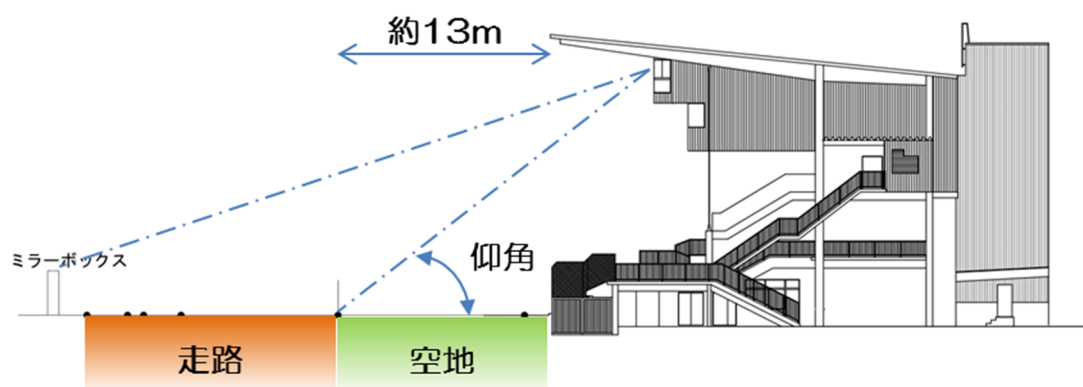
図 2-7 現状の配置



## ②バンク配置の検討

- ◇写真判定カメラおよび審判室とゴールラインの距離が約 13m離れることで、審判機能に不都合が生じるおそれがある。審判員の目視距離が遠くなる問題のほか、カメラ位置とゴールラインの仰角が低すぎるとゴール前の選手が重なり審判および写真判定に支障が出る。
- ◇競技審判および写真判定の関係団体を交え、現場および図面での検証を行った結果、カメラのレンズ調整で対応可能との見解が示された。
- ◇一方で、この空地により、ゴール前の屋外観覧スペースとして活用できるほか、車両等の通路を確保できるという利点もある。

図 2-8 400mバンクにおける審判機能の検討



※仰角が低すぎると、選手が重なり審判およびカメラ判定が難しくなる。

- ◇このことから、400mバンクの整備であっても既存施設を活用することは可能であることが明らかになった。

#### （４）施設の整備手法の検討

---

- ◇バンク周長を縮小した場合でも施設整備の手法は、新築建替と大規模改修との双方とも対応が可能である。
- ◇新築建替の大きな利点は、必要な機能を積み上げて、対応可能な施設を検討できることである。一方で、既存施設の解体と新築により建設費が増大すること、さまざまな法的規制への対応が課題となる。
- ◇大規模改修の大きな利点は、既存の施設を活用することにより、整備費用を抑えることが可能な点である。また、既存の建物の改修であるため、法的規制の緩和も可能である。一方で、既存建物に解体する施設の各種機能を満たすスペースを確保するためには、十分な検討が必要となる。
- ◇競輪事業実施の目的は、その収益が市財政に寄与することであり、競輪事業会計からの繰り出しの継続はもとより再開後の経営基盤（積立金）の確保も重要である。そのためにも、可能な限り整備費用を削減する観点から、安価である既存施設改修による施設整備手法が有効である。
  - ※概算経費（新築）約 18 億円（メインスタンド：14 億円、選手管理棟：4 億円）  
（改修）約 12 億円（メインスタンド：9 億円、選手管理棟：3 億円）
- ◇既存施設の改修では対応できないローラー練習室の拡充やアマチュアスポーツ振興に必要な施設整備については一部増築することで対応する。

## (5) バンク周長の検討

◇バンク周長については、関係団体からは異なる周長の要望があり、どのバンクが一番優れているという評価を下すことは困難なことから、さまざまな観点による総合的な判断が必要である。

◇本項ではバンク周長の方針を定めるために、「地域貢献、災害対応、アマチュアスポーツ振興」「選手会要望」「競輪事業の収益性」の観点から検討を行う。

### ①地域貢献、災害対応、アマチュアスポーツ振興の観点

◇サイドスタンド解体、バンクの規模縮小により生み出される空地で、災害対応のための駐車場用地や、市民が憩える緑地の整備などが可能となり、より地域に貢献できる施設整備が可能となる。さらに、空地の確保は都市運動公園として相應しい自転車競技場を目指すうえで重要となる。

◇アマチュアの自転車競技団体からは 333mバンクの要望が高い。これは国際的な自転車レースが 250mバンクにより実施されるため、より短走路であることが望ましいことによる。

### ②選手会要望の観点

◇地元の競輪選手会からは 400mバンクによる施設整備の要望がある。競輪を実施する際、実際にバンクを使用する競輪選手の意見は重視しなければならない。

### ③競輪事業の収益性の観点

◇近年の車券売上、収支および繰出額について、全国競輪場をバンク周長別に平均して比較すると、400mバンクが高い傾向にある。

表 2-8 全国競輪場の運営（売上、収支、繰出）状況  
＜車券売上（単位：億円）＞

| 周 長       | 平成 26 年度<br>GⅢ以下<br>1 日平均売上 | 平成 27 年度<br>GⅢ以下<br>1 日平均売上 | 平成 28 年度<br>GⅢ以下<br>1 日平均売上 | 3 年平均<br>GⅢ以下<br>1 日平均売上 |
|-----------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 500mバンク平均 | 2.04                        | 2.48                        | 2.39                        | 2.30                     |
| 400mバンク平均 | 2.39                        | 2.53                        | 2.59                        | 2.50                     |
| 333mバンク平均 | 2.14                        | 2.42                        | 2.43                        | 2.33                     |

## 第2章 施設整備の検討

＜収支と繰出額（単位：億円）＞

| 周 長       | 平成 26 年度 |      | 平成 27 年度 |      | 平成 28 年度 |      | 3年平均 |      |
|-----------|----------|------|----------|------|----------|------|------|------|
|           | 収支       | 繰出額  | 収支       | 繰出額  | 収支       | 繰出額  | 収支   | 繰出額  |
| 500mバンク平均 | 2.83     | 1.29 | 4.15     | 0.92 | 3.18     | 0.72 | 3.39 | 0.98 |
| 400mバンク平均 | 3.25     | 1.03 | 4.40     | 1.24 | 4.49     | 1.24 | 4.05 | 1.12 |
| 333mバンク平均 | 3.22     | 0.84 | 3.02     | 1.01 | 4.19     | 1.01 | 3.47 | 0.96 |

※施行者ごとの競輪事業による収支の平均値

※埼玉県は大宮（500mバンク）と西武園（400mバンク）を持つため除外

※平成 28 年度の熊本は 400mバンクにカウント

（資料）全国競輪施行者協議会資料より作成

◇さらに、最も大きい収益が見込まれる G I（特別競輪）の開催場数について、バンク周長別に比較しても、400mバンクの開催率が高い傾向が認められる。

表 2-9 G I（特別競輪）の開催場数

| 周 長          | 500mバンク | 400mバンク | 333mバンク | 合計 |
|--------------|---------|---------|---------|----|
| 平成 16～20 年度  | 5（17%）  | 18（60%） | 7（23%）  | 30 |
| 平成 21～25 年度  | 4（13%）  | 22（73%） | 4（13%）  | 30 |
| 平成 26～30 年度  | 1（3%）   | 23（77%） | 6（20%）  | 30 |
| （現状 43 場の比率） | 5（12%）  | 31（72%） | 7（16%）  | 43 |

（資料）全国競輪施行者協議会資料より作成

◇競輪事業の収益に関する要因は、地理的な要因をはじめ開催時期や出場選手などさまざまであり、バンク周長の違いが収益に及ぼす影響は明確ではない。

◇400mバンクの競輪場数は他の周長より圧倒的に多いため、競輪選手にとっては走りやすい、車券購入者にとっては予想しやすいことが、平均値が高い傾向につながっていると考えられる。

### ④バンク周長検討のまとめ

◇地域貢献・災害対応・アマチュアスポーツ振興の観点からは、生み出される空地の利活用が可能となることから、より短走路に縮小することが有効である。

◇地元の競輪選手会は 400mバンクを要望し、アマチュア自転車競技者にとってはより短走路が望ましい。

◇以上のことを踏まえ、熊本競輪場再開の目的である「復興財源への寄与」という観点から、売上・収支・G I（特別競輪）の開催数などを見ると、400mバンクによる整備が有効である。

## 4. 施設整備の検討結果について

◇施設整備についての検討結果を整理すると、下記の通りである。

### （１）熊本競輪事業検討会の意見

---

- ◇「H29 検討会」の意見から「地域貢献」、「災害対応」、「アマチュアスポーツの振興」の3つの理念の実現が求められる。
- ◇「H30 検討会」の意見から「400mバンクによる施設整備」と「既存施設の活用などにより経費削減」が求められる。

### （２）必要となる収容規模

---

- ◇熊本競輪場内に必要な収容規模は、本場 G I 開催を想定して、5,000 人と設定する。
- ◇施設に必要な収容規模は、開催日数が最も多い場外発売 GⅢおよび F I を想定して、2,000 人と設定する。
- ◇駐車場については集客見込から 500 台を確保し、多数の来場者が見込まれる場合には、近隣の駐車場を借り上げることで対応する。

### （３）既存施設の利活用とバンク周長の検討

---

- ◇施設整備手法については、競輪事業会計からの繰入の継続と財政基盤の確保を考慮して、整備費用が安価である既存施設改修が有効である。
- ◇熊本競輪の再開は、その事業収益が熊本地震からの復興財源に寄与することを目的としており、収益性の面からも 400mバンクの整備が有利である。

#### (4) 施設整備の方向性の整理

◇ここまでの経緯を踏まえ、施設整備の検討で重視した事項と対応の方針を改めて整理する。

表2-10 施設整備の方向性

| 重視する事項                               |                      | 対応の方針                                                                                                                |
|--------------------------------------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 復興財源への<br>寄与                         |                      | <p>◇可能な限り早期の再開を目指し、一般財源への繰出を確保する。</p> <p>◇既存施設を利活用し、経費圧縮を図る。</p> <p>◇施設規模をコンパクトにし、より効率的な運営を目指す。</p>                  |
| 運動公園内施設と<br>してのあり方                   |                      | <p>◇地域に開かれた自転車競技施設として整備する。</p> <p>◇広い空地を確保し、駐車場・緑地として開放する。</p>                                                       |
| 3<br>つ<br>の<br>理<br>念<br>の<br>実<br>現 | 災害対応                 | <p>◇広い空地を確保し、災害時の避難場所として整備する。</p> <p>◇駐車場での車中泊、バンク内での避難テント対応ができるようにする。</p> <p>◇防災倉庫、防災井戸、マンホールトイレ等の災害対応設備を充実させる。</p> |
|                                      | 地域貢献                 | <p>◇地域開放施設としての機能を整備する。</p> <p>◇イベントで利用できるバンクを整備し、地域の活性化を図る。</p> <p>◇市民が足を運びやすいように緑地、休憩スペースを確保する。</p>                 |
|                                      | アマチュア<br>スポーツの<br>振興 | <p>◇競輪だけでなく、アマチュア自転車競技、車いす競技などに対応できるバンクを整備する。</p> <p>◇自転車競技の活性化のために、総合的な自転車競技練習施設を整備する。</p>                          |